

## 連携中枢都市圏ビジョンパブリックコメントに対する考え方

鳥取市企画推進部政策企画課

連携中枢都市圏ビジョンに関するパブリックコメントを実施しました。

実施期間 平成30年1月4日（木）から1月22日（月）午後5時15分まで

提出件数 5人（21件）

お寄せいただいた御意見に対する考え方は次のとおりです。

貴重な御意見をお寄せいただき、大変ありがとうございました。

| 番号 | 御意見等の概要   | 該当  | 考え方                    |
|----|---|-----|------------------------|
| 1  | <p><b>【産業について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業面で大きな課題である「人材確保」の記述を入れるべきでは。</li> <li>・リーマンショックの表現はなくてもよいのでは。</li> </ul>   | P52 | 「人材確保」の観点から追記します。      |
| 2  | <p><b>【目指す将来像について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に記述が弱くぶれた感がある。</li> <li>・地域資源を活用した地域経済の拡大、DMO設立による戦略的広域観光振興、高等教育の環境などを整備などの考え方を整理してはどうか。</li> <li>・若者に魅力ある圏域の記述は、前段は自立した活力ある圏域にもあるので、軽くして、もっと若者に魅力ある圏域としての考え方を入れてはどうか。</li> </ul> | P53 | 「目指す将来像」について整理・修正をします。 |
| 3  | <p><b>【ビジョンとは】</b></p> <p>P53に将来像が記述されているが、抽象的すぎる。この地域だからこそできる「ビジョン」が必要ではないか。</p> <p>また、5つの圏域の将来像は、個々の独立している将来像ではなく、相互連携をしていると思いますので「全体観」が分かるようにしてはどうか。</p> <p>また、唯一数字のある人口増加が優先順位が高いのであれば、これに向かってどうするかをもっと深めた対策を出すべきではないか。</p>                         | P53 | 「目指す将来像」について整理・修正をします。 |

| 番号 | 御意見等の概要   | 該当    | 考え方   |
|----|---|-------|---|
| 4  | <p><b>【具体的取り組みについて】</b><br/>           地域の特色を出す為に「麒麟のまち」を中心軸にして、アからウの分類を変更してみてはどうか。今までの延長ではなく、取組みに対する意識（また地域住民の意識）を変えることが重要である。</p>   | P54以降 | アからウの分類は、国の推進要綱に基づいており、現時点では、国の要綱を基に分類したいと考えます。 |
| 5  | <p><b>【観光振興について】</b><br/>           ・増加している外国人観光客（インバウンド）の対応について記載してはどうか。</p>   | P57   | 「外国人観光客」についての観点から追記します。                         |
| 6  | <p><b>【工業の振興について】</b><br/>           ・現在、工業については雇用状況は悪化しているのではなくかつてなく好転している。製造業は厳しい状況ではなく、持ち直しつつある状況。受注に生産が間に合っていない企業もあり、設備投資も前向きに行われているため、現在の課題は、人材確保、生産性の向上や働き方改革を進めること、また、賃金上昇への対応等である。併せて、起業家に関する記載をしてはどうか。</p> | P58   | 「工業の振興について」について整理・修正をします。                       |
| 7  | <p><b>【教育について】</b><br/>           ・教育の記述について、課題や取組を記載してはどうか。</p>  | P76   | 「教育」について整理・修正をします。                              |

| 番号 | 御意見等の概要  | 該当    | 考え方  |
|----|--|-------|--|
| 8  | <p><b>【医療費の制度について】</b><br/> 生活圏において、鳥取市を中心としたエリアを利用することの多い新温泉町では、医療機関、特に内科・歯科以外の診療科において、鳥取市内の医療機関を利用する方が多くいる。その中で、いわゆる「マル老」、「マル乳」といった福祉医療費の制度は、元が兵庫県の事業である為、鳥取県の医療機関で診察された場合、役場窓口での償還払い手続きの必要がある。町民の利便性、事務量の軽減を考慮して、鳥取県国保及び圏域医師会と連携し、医療機関から直接請求ができるよう調節すべきである。なお、当該事業はこの度のビジョン案に含まれていない。</p> | P54以降 | レセプト審査や国保連の算定審査のチェック、兵庫県の制度を県外の医師会が事務処理を行うことについて同意、事務処理費(委託料)の負担等様々な課題があり、現実的に困難と考えられます。 |
| 9  | <p><b>【具体的取り組みについて】</b><br/> P54以降に記述されている90項目の取り組みは、どれもできれば申し分ない内容と思う。しかし、実行に際し投資効果を考えて、優先順位を付けて取り組むべきではないか（重みづけが必要）。</p>   | P54以降 | 効果的に連携事業を実施します。  |
| 10 | <p><b>【実現に向けて】</b><br/> 今までの手法で具体的な施策の実現を図るのも良いですが、最先端の技術活用（AI）など、民間との更なる連携をして「地域活性化」への挑戦をお願いしたい。</p>  | P54以降 | 新たな取組や官民連携も考慮しながら、事業の構築や見直しを行います。  |
| 11 | <p><b>【無形文化財の活用について】</b><br/> ビジョンのタイトルにもなっている麒麟獅子は、地域にまたがる独特な無形文化財であると思う。地域独自の歴史的背景が育んだ文化の一端を垣間見る貴重な文化財であるが、人から人に継承されるものことから、持続可能なシステムづくりを求める。<br/> その意味で、後継者育成に関するビジョンが盛り込まれてもよいのではないかとと思う。</p>  | P64   | 伝統芸能の継承の観点から、後継者育成も考慮しながら、事業を進めていきます。  |

| 番号 | 御意見等の概要  | 該当  | 考え方  |
|----|--|-----|--|
| 12 | <p><b>【鳥取砂丘コナン空港について】</b><br/> 同空港は、国内線が東京との往復便しかなく、それ以外の交通は鉄道を主に利用するしかない。現在は、米子鬼太郎空港も同様であり、山陰地方への空路は誠に不便と言える。<br/> 鉄道やバスなどとの連携を視野に、航空路の再開発にチャレンジされてはどうか。</p>  | P73 | <p>重い課題としてとらえております。</p>  |
| 13 | <p><b>【保育者等を対象とした障がい児支援の在り方等の研修実施について】</b><br/> 修学前後を問わず、町内の障がいを持つ子ども達の中には、鳥取県内の療育機関、事業所を利用している実態がある。自立支援給付費事業を中心に、県を超えた活用をスムーズにできるよう取り組むべきである。事業番号49において、主に就学前児童が中心と考えられる研修事業があるが、実際の療育やサービスの提供という内容ではない為、実情に合わせた運用が可能となる事業を求めるものである。</p> | P81 | <p>療育機関や障害福祉サービス事業所の現状を踏まえ、連携市町と連携が取れるように検討します。また、障がい児等が日中を過ごすことの多い保育園等において、より良い支援が行えるよう「障害児保育」の分野を含む「保育士等キャリアアップ研修」など、単独の市町での実施が困難な事業を広域で検討します。</p> |
| 14 | <p><b>【野生鳥獣被害防止事業について】</b><br/> 事業番号58において野生鳥獣被害防止事業があるが、頭数調査、駆除計画策定の記載がない。鹿などは林道を中心に広域で活動する為、一部地域で駆除すれば、他地域に流入する現実がある。したがって広域での調査と頭数管理の計画を立案することを事業に盛り込むべきである。</p>  | P84 | <p>各市町での計画に基づき計画的に事業を実施しています。広域での計画立案については、今後の検討課題にしたいと考えます。</p>   |
| 15 | <p><b>【森林セラピーについて】</b><br/> 温泉セラピーとか森林セラピーとか、スピリチュアルは流行かもしれませんが、あまりにも非科学的なので、民間企業がやるのは構いませんが、市町村が関わるのは如何なものかと思えます。もう少し理性的であってほしい。森林浴程度で、あまりスピリチュアルに寄りすぎないほうが無難ではないか。</p>   | P86 | <p>森林セラピーは、科学的に検証された「森林浴効果」に着目し、これを実践するものであり、大学の研究者等と連携しながら進めています。</p>   |

| 番号 | 御意見等の概要   | 該当  | 考え方   |
|----|---|-----|---|
| 16 | <p><b>【博物館施設等活用連携事業について】</b><br/> 新温泉町のジオパーク館について、海と大地の自然館（岩美町）など他の施設と連携し、新温泉のこどもが地元の自然をより深く知り、身近に感じることのできる施設として、他の施設とお互い評価し合い、自身の課題を把握し、改善できるシステムを導入してはどうか。</p>                          | P82 | <p>山陰海岸ジオパークにおける「海と大地の自然館」は展示の拠点施設として、「山陰海岸ジオパーク館」は体験・学習の中核拠点施設として位置付けられています。<br/> 山陰海岸ジオパーク館においては、可能な範囲で施設整備を進めるとともに、ジオパーク推進協議会を中心に他施設との連携を図りながらジオパーク活動の推進を図ります。<br/> 連携事業としての新温泉町のジオパーク活動は、事業名No.27「山陰海岸ジオパークを活用した広域観光推進事業」として、鳥取市・岩美町と連携した取組を行うこととしています。</p> |
| 17 | <p><b>【公共図書館相互利用の件について】</b><br/> 鳥取県立図書館で定期的に行われている「鳥取大学サイエンスアカデミー」は現在、米子市立図書館、倉吉市立図書館、琴浦町図書館、大山町立図書館（本館）、日野町図書館、南部町立法勝寺図書館でライブ中継による聴講ができる。是非、新温泉町の加藤文太郎図書館でもライブ中継による聴講が出来るようになってほしい。</p> | P84 | <p>「鳥取大学サイエンスアカデミー」は大学の地域貢献事業として実施しているもので、配信については大学が決定するものです。具体的には、アカデミーの講義をライブ配信し、別会場でプロジェクター投影し聴講しています。鳥取大学が配信の決定を行うことや各図書館のIT環境も異なることから、各市町の単独事業としての対応を検討することとします。</p>   |
| 18 | <p><b>【いなばのジビエ推進協議会支援事業について】</b><br/> 新温泉町でも、猪や鹿の有害鳥獣は多いですが、商品となるジビエとしての有効利用までには至っていないと感じている。いなばだけでなく、新温泉町も一緒に取組むことは難しいか。</p>   | P85 | <p>新温泉町におけるジビエ利用はまだ課題が多いと思いますが、国においても推進していることから、現在の行政の枠組みの中で検討していきます。</p>   |

| 番号 | 御意見等の概要   | 該当    | 考え方   |
|----|---|-------|---|
| 19 | <p><b>【景観の保持・保全】</b><br/> 当該地域は、山陰海岸ジオパークの中核を担う貴重な海岸線を有しており、その保持・保全に関しては、環境省や文化庁との連携が不可欠であることは理解できた。<br/> しかし、伝統的なまち並み、四季の移ろいが織りなす景観は、どのように取捨選択していくのか。<br/> 例えば、岩美町田後や網代は、建物は比較的新しいものでも、網の目のように結ばれた細い街路は、生活を物語るヒューマンスケールを今日に伝えている。<br/> 他方、そのような細街路が災害時に障害になっていることも否めないところである。このようなパラドックスを克服して、後世へ結ぶことも大切なことではないか。<br/> 世界遺産となっているまちの魅力として、細街路が縦横に結ばれている例は、枚挙に暇がない。すなわち、まちの佇まいそのものが経済（観光）資源にもなり得ると思う。<br/> また、当該地域特有の気候が織りなす四季の移ろいは、他地域にはない素晴らしい景観を演出している。<br/> 昨年4月に桜を観に行ったが、大岩駅から駟馳山方面を眺めたとき、ゆっくりと流れる「霧」は、この上なく幽玄の境地を彩り、思わず感涙した。<br/> このような景色（眺め）についても、地域の資源として保持・保全するビジョンも盛り込んでいかかか。</p> | -     | <p>岩美町の「浦富海岸保存管理計画」に基づき、地域住民と連携しながら保存・管理を行います。</p>  |
| 20 | <p><b>【確実に成果を挙げるために】</b><br/> このような計画を実行するためには、推進責任者の明確化、予算の手当て、未達成の場合の責任は、など曖昧な点を明確にして頂きたい。</p>  | -     | <p>連携市町長のもと、取組を進めます。<br/> 予算については、各市町議会に提案し議論をしていただきます。<br/> また、毎年度、ビジョン懇談会を開催し未達成の事業も含めて、事業の効果検証を実施し、必要に応じて見直しを行います。</p> |
| 21 | <p><b>【具体的取り組みについて】</b><br/> KPIの数値を目標にした根拠を明確にしていきたい。これで良いのか判断ができない。</p>   | P54以降 | <p>基本的には、平成28年度実績を基に、事業に応じて平成34年度の目標を定めています。その根拠は事業ごとにまちまちであり、すべてを同様に記載することは困難です。根拠を記載することについては、検討課題といたします。</p>           |

※意見については、一部、要約をしています。